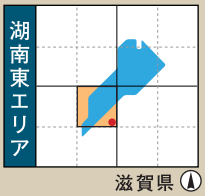
史跡
国指定

旧和中散本舗
きゅう わ ちゅう さん ほん ぽ

栗東市六地蔵　昭和24年7月13日指定



「和中散」は、徳川家康が上洛の途中、野洲永原御殿で腹痛を起こした時、抜群の薬効を発揮したといういい伝えにより、その名を全国に広めた道中薬です。この和中散を製造販売すると共に、東海道の小休本陣を兼ねた店舗建物が今に残り、東海道の賑わいを私達に伝えます。

当時のできごと	
1616年	徳川家康没す
1687年	生類憐みの令が出る
1828年	シーボルト事件

東海道名薬「和中散」

和中散の製造がいつから行われていたのかは定かではありませんが、江戸時代の初期には東海道梅ノ木立場（たてば：宿場と宿場の間に置かれた間の宿）の名物道中薬として有名でした。家康が愛用したという伝えも、和中散の名を広めるのに一役買ったのでしょう。元禄3年（1690）に来日したドイツ人医師ケンペルが立ち寄り、この薬のことを記録しています。また、幕末にはシーボルトもこれを買い求めた記録が残っています。

元禄期には、「本家ぜさい屋」の商号で全国に販路を広げた近江屋、「わちうさん」の商号で店舗販売に特化した伊勢屋など、3軒の和中散を売る店があって繁盛し、梅ノ木は、もぐさの亀屋とともに道中薬の名所として、東海道でも特に有名な間の宿となっていました。

3軒の和中散店は、それぞれが小休本陣を兼ね、草津宿の本陣機能を補佐していましたが、滞在大名の経済状況悪化の影響を受け、幕末頃には経営が苦しくなり、明治期には史跡に指定されている伊勢屋（大角家）のみが残りました。

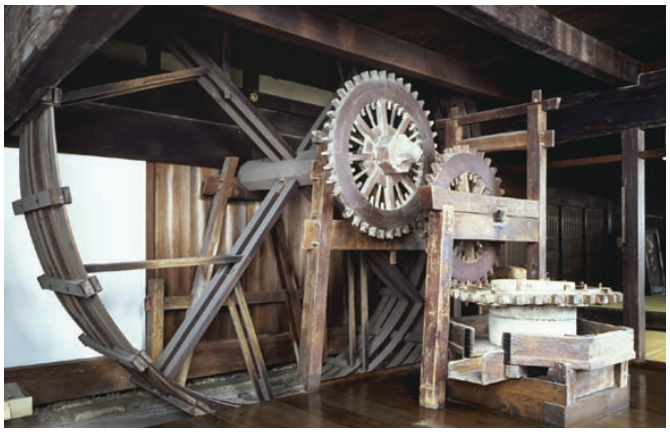


旧和中散本舗主屋　手前は東海道

和中散本舗（大角家）

大角家は、東海道に面して大きな間口を構えます。主屋には、30畳を越す広さの店舗や、土間を隔てて二十数畳の西店があり、この奥に薬を造る仕事場があります。製薬機は、人が入って足踏みで回転させるもので、木製の動輪と歯車により石臼を回す仕組みとなっています。この奥には多数の部屋が並び、その東に書院が続き、大名貴人の宿泊休憩に使われました。この書院に南面して庭園が広がります（学習シートNo.081）。街道から書院には、薬医門（やくいもん）を通り、式台付きの玄関を経て入ることができます。

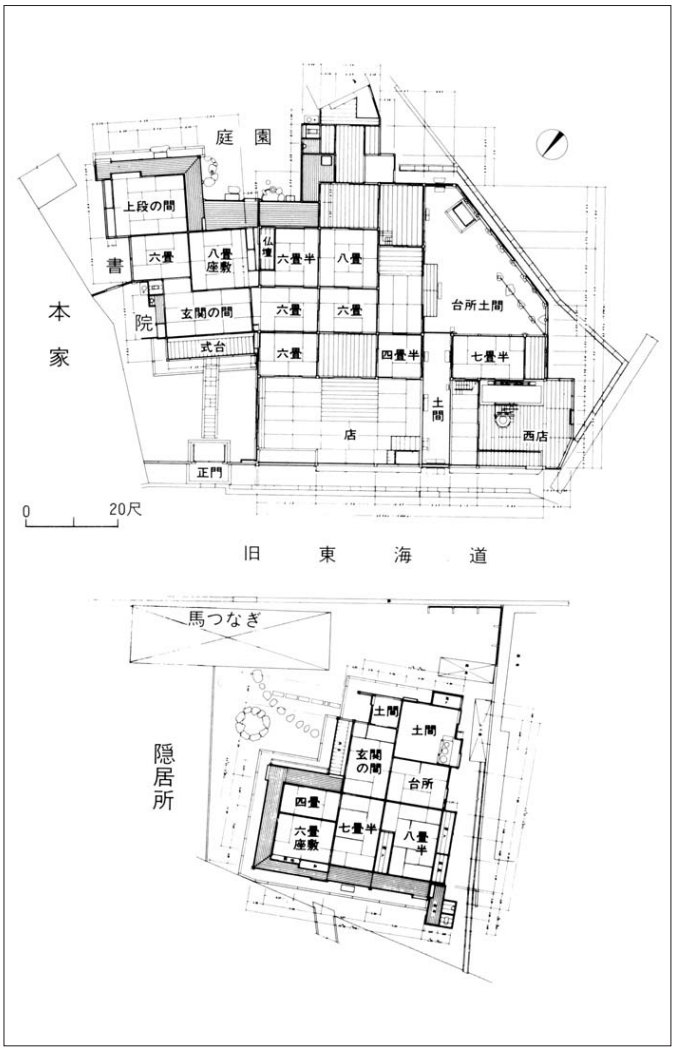
また、街道を挟んで向かい側には、馬繋ぎの長屋と薬師堂、隠居所の建物が残ります。主屋と隠居所の建物は、重要文化財に指定されています。



製薬機　大きな輪の中に人が入って機械を動かす



馬繋ぎと隠居所、薬師堂



旧和中散本舗平面図

関連する文化財

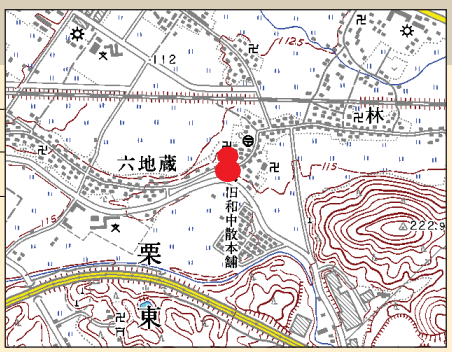
草津宿本陣（草津市）	学習シートNo.017
大黒屋本陣（土山町）	東海道土山宿に置かれた本陣の遺跡
旧東海道横田渡跡（水口町）	学習シートNo.048
大角氏庭園（栗東市）	学習シートNo.081

もっと深く知りたい

栗東歴史民俗博物館	☎077-554-2733	栗東市小野223-8
草津宿街道交流館	☎077-567-0030	草津市草津3-10-4
土山町立歴史民俗資料館	☎0748-66-1506	甲賀郡土山町北土山2230

※隠居所は公開していません

旧和中散本舗へのアクセス　JR草津線　手原駅下車



【参考文献】〔図説日本の史跡〕同朋舎　〔図説近江の街道〕郷土出版社

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月